

## 特別講演 (1)

## 新潟県における医学教育前史

蒲原 宏

本県における系統的な医学教育は安永五年九月八日に、新発田藩城内二ノ丸西ノ門内に医学館「体仁舎」を建て、藩医松田長啓に運営を委ねたことに始まる。

八代藩主溝口直養なおよす(一七三〇—一七九七)は稲葉迂斎に師事し藩政の理念を山崎闇斎学派に採り安永元年(一七七二)四月九日藩校道学堂を設け、安永六年から領民にも聴講を許可していた。天明二年(一七八一)九月二二日には町医・在村医師の医学館での聴講奨励を布達し、自からも『攝養辨惑』(安永五年)、『攝養集義』(安永九年)等、養生医学書の編著を行い医学教育を熱心に推進した。十代直諒なおわき(一七九一—一八五八)は水腫の持病もあり最も医学教育に熱心で聴講に参じ又、神農像を自から描いて医学館に授け、焼失した医学館の復興造営に尽力した。しかし、硬直した漢方医学教育は幕末には破綻し、領内の有識医師は西洋医学教育を志向し長崎、江戸に遊学し、明治四年の廃藩置県で藩医学教育の体系は廃絶するに至った。

天領の佐渡では文政八年(一八二五)八月八日佐渡奉行所の学問所修教館内に医学所が設けられ漢方医学教育が幕末まで小規模に行われ、医師の資格認定も行うなど島内の医師の統制が行われていた。明治三年七月相川仮病院が設けられ、英学所が併設され、明治一〇年一月に相川病院となり五名の医学生に西洋医学教育が行われていたが医術開業試験のための教育であった。

長岡藩(牧野氏)は嘉永六年(一八五三)に藩医田中修道が「済生館」を設け漢方医学教育を開始する。

また高田藩(神原氏)は藩校「修道館」で医学の講義も担当させるが、独立の医学教育施設に発展しなかった。桑名藩領の柏崎町の「柏崎医学館」は医学教育機関の機能は少なく、現在の地方医師会的役割であった。

旧藩時代の先端的な医学教育は先進地である長崎、江戸、京阪地方への遊学にゆだねられた。漢蘭折衷派の伊良子塾一〇、華岡塾一九、本間塾三、蘭方系では土生塾三一、坪井塾一三、宇田川塾三、杉田塾七、大槻塾一四、海上塾四、藤林塾六、竹内塾二、小森塾一一、吉田塾六、桂川塾六、小石塾七、広瀬塾二、川木塾七、適塾(大阪)一三、適塾(東京)一四、桑田塾三、佐藤塾(順天堂)一七、伊東塾一九、戸塚塾八、林塾四、松本塾一一、長崎養生所三、長崎精得館六、大阪医学校二、ヘボン塾三、シモンズ三、ローレッツ五、などがその主なるものである。これらの遊学医師が帰郷後に小規模な医学教育を行っている。入沢恭平(一八三二—一八七四)門下一四、竹山屯(二八四〇—一九一八)門下一六、柳野直(一八四二—一九二二)門下五、宣教医師パーム(Theobald Adrian Palm 一八二八—一九二八)門下六が、地方における私塾的な西洋医学教育であった。

未開設の私塾的医学校としては南魚沼郡大沢村黒田玄鶴(一七七九—一八三五)の神農講による医学館創設は文政十二年(一八二九)に計画募金するが挫折。明治元年本多文明(一八一三—一八七〇)敬齋(一八三六—一八六九)父子による蒲原郡朝日村(新津市)の「仁寿医学館」創設の中止の毒殺事件があった。

近代的な西洋医学教育が開始されるのは楠本正隆(一八三八—一九〇二)県令の近代化政策により明治六年七月の新潟病院開設と医学生募集布告による。

同年十二月に医学町の病院で教育を受けるようになった学生は五二名となっていた。名称も新潟病院医学教場、新潟病院医学校、新潟医学所、県立新潟医学校、県立甲種新潟医学校と変る。明治十年に二三名の最初の卒業生を出す。同十一年に五名、十三年一〇名、十四年八名、十五年一三名、十六年二一名、十七年一二名、十九年一一名計九三名が卒

業するが、明治二十一年三月三十一日で廃校となり一時医学教育は中断される。この県立新潟医学学校の医学教育と平行し、公立高田病院でも一期一〇名程度の医術開業試験を目指しての医学教育が行われていた。同じ目的で明治三十四年甲野泰造、谷口吉太郎らによる私立長岡医学校が創立され、明治四十一年まで続いた。

明治三十六年三月二十六日勅令第六一号専門学校令発布を受け、新潟県に医学専門学校設立運動が在京の北越医学会員と県内会員の医師らにより、県教育界、政界、財界を動かし「県立医学校及附属病院設立運動」として結集した。明治三十八年に在京医界の重鎮石黒忠憲、長谷川泰、入沢達吉、川上元治郎らの尽力による強力な設立運動が実り、明治三十九年に官立新潟医学専門学校が内定し、明治四十二年四月から一期工事が開始された。明治四十三年三月三十一日官立新潟医学専門学校が創立、大正十一年新潟医科大学開設、昭和二十四年五月三十一日新潟大学医学部となり現在に至っている。その前史について詳述紹介する。

(日本歯科大学医の博物館)